

6星マイヤー逝く

伯国が世界に誇る建築家「自由な曲線」で常識覆す

伯国が世界に誇る建築家オスカー・ニーマイヤーが5日午後9時55分、入院先のリオの病院で亡くなった。104歳だった。世界遺産にもなった首都ブラジリアや、ニューヨーク国連ビルなど、同氏の業績は20世紀建築のハイライトの一つだった。6日付伯字紙が報じている。

プラジリアを世界遺産に

ニーマイヤーは1907年12月15日、リオ市ラランジエイラスのド・イツ系の家庭に生まれた。祖父は連邦最高裁判事で、裕福な親類に囲まれて育つた。父は活版印刷技師だった。幼い頃から絵を描くの

5日のオスカーコンペティションは「過去60年で最も革新的な建築家」(英國BBC局)、「曲線の詩人」(西国エル・バイス)、「建築で伯国を植えられた」(南米杯決勝第1戦の対戦相手)、「アルゼンチンの詩人」として、コルビジエらと共にニューヨークの国連ビルの設計プロジェクトに招かれた。同ビルの建築を手がけた(5年完成)。

1950年代には聖市

の都市開発プロジェクト

として1956年、

ニーマイヤーは大統領と

建築家を志し、リオ国立美術大学に入学。在学中

に伯爵の建築の権威

だつた。兄弟入りする。

1936年、当時のクヌマ・コバネマ教育保健相から

依頼され、教育保健相設

計プロジェクトに参加。

そこでコスタから「歐

州近代建築の父」ル・コ

ルビュジエを紹介され

る。伯国建築と歐州モダニズムを融合したニーマ

イヤーの建築様式はこのとき開花したとされる。

1937年に初プロジェクトとしてのリオのオブ

ラ・ド・ペルソ保育園を

建築する。

54年には南部

のイビランガ公園プロ

ジェクトも行なった。

1940年には1940年、

ニーマイヤーの転機に

なったのは1940年。

ミナス・ジエイストベ

ロオリゾンテの市長だつた。弟のルシオ・コスタに

弟入りする。

1947年には、「世

界の10大建築家」のひ

とりとして、コルビジエ

らと共にニューヨークの

国連ビルの設計プロ

ジェクトに招かれた。同ビルの建築を手がけた(5年完成)。

日本中の天文学者が連携

夢の東アジア天文台

平和な学問の輪広がる



【共同】「今、私たちは夢の実現に向けて、大きな一步を踏み出すことができました」。やわらかな春の日差しが窓外に差し込む会議室で、劉彩品(りゅう・さいひん)は言葉をかみしめながら静かに喜びを伝えた。

4月初め、北京。日中韓台の天文学者会議で、人目(にこまて)に囲まれて祝杯を挙げる劉彩品(中央)。今の中日の中国の天文学者たちを育てたことが劉の誇りだ

共同観測サイトの有力候補地に中国チベット自治区アリ地区の海拔5,110メートルの高地が選ばれた。

劉さん、来年はいつ現地を見に行こうよ。会議の後、海部宣男(68)が弾んだ声で話しかけた。そばで劉の夫、木村博(74)も満足そうな笑みを浮かべる。

「不幸な歴史のあつたこの地域に平和な学問の輪を」。1992年、中國の紫金山天文台(南京)の教授たった劉と、

国立天文台(東京)の教授だつた海部は共同研究センターエンジニアとして、東アジア天文台設立を目指す。20年を経てやっと夢に近づいた。

台湾出身の劉は20歳で日本に留学。東京大学

で天文学を学び博士課程

に在籍中に、1学年上の木

村と結婚、男の子2人を産んだ。海部は夫妻の後輩だった。

劉は正義感の強い丈夫

性格。60年代末、赤

ん坊に乳を飲ませながら、全共闘の学生たちに

おにぎりを届けた。

あこがれ

当時、日本にも中国に

も、左翼運動の風が吹いていた。劉も「社会主義にあこがれた」。

「反共

には徹底的に反対した。

戦争末期、秋田県の花岡鉱山に強制連行された

劉は中国国籍だが、今

の中国社会については

「資本主義でお金ばかり

を販売しました。すると予想の5倍売れ、すぐ品切れ。それで本社も了解提案だけでは不

足は変えられない。実際によつてみると、これが悲壯な決意からだつた。

だと痛感しました。大切にやつてみることが大切

にやつてみることが大切

にやつてみることが

東洋街では毎年のように老舗の日本食店が閉店していく。そんな中で飯田龍也アレシャンドレさんが8年から始めた「酒蔵」は、数少ない氣を吐く存在だ。特にインターネットを使して宣伝し、宅配

父子で伝える日本食文化



飯田英一さん

日本酒市場開拓の喜分け (下)

主催団体は名目上、場所を提供する県連だが、実行団体は同委員会となる。協賛団体として文部省、農業省、青年連絡議会、戦後移住者が多い伯父、農業大會、老々連、コチア青年連絡議会などにも参加を呼びかけている。

川合氏によれば、既に羽藤ショージ聖州議や某企業から全面協力を取り付けたといい、全国の知事、県会議長、政治家などに招待状を出し、日本から多くの来賓を呼びた

屋だった。「人の口に入るものだから、人任せにしたくない」ということだ

新しさに隠された商売の原点を尋ねると、実は父親の代からこの街で商売をしている「老舗」だつたと分かった。一般的に、一世は有名大学を重んじて就職するが、飯田英一さんは、その中で弁当屋で料亭「赤坂」の元板前・大野暉さんの勧めで1995年、聖市で初

する方法は、当地ではまだ多くない。

出で教授や医者、弁護士になるものが多い中、親の商店を営んでいたが、「あ

わりから、今も店の奥の物販コーナーで保存料無添加の手作り食品を家族で販売する。英一さんはかつて宝石店を営んでいたが、「あ

いだつて、手のかかる手作り

の弁当屋「大和」を譲り受けた。

保存料無添加・手作りを徹底し、「手のかかる

ものを作った」。すると日本人の嗜好に合つた良質の商品が客の信頼

を得て、常連も出来た。

しかし建物の腐朽が進行

み、2年前に店舗を移転。今は僕が道楽でして

る。いざれ息子の日本酒に切り替える」と弁当製造業から手を引く意向も見せている。

東洋街では、「一世がせつかく育てた店舗を子孫が受け継がず、中国・韓国人に売られた事例が

昭和40年代から始めて「酒蔵」は、本当に氣を吐く存在だ。

飯田英一さんは、その中で飯田龍也アレシャンドレさんが8年から始めた「酒蔵」は、数少ない氣を吐く存在だ。特にインターネットを使して宣伝し、宅配

移住60周年、実行委が発足



来年7月、日本祭り会場で

先月の県連代表者会議で、7月の「第16回日本祭り」の会場で戦後移住60周年を祝う催しを行うことが決まり、有志10人が5月、県人会館で初会合を開き、「ブラジル日本戦後移住60周年記念祭実行委員会」を発足させた。式典には500人以上の出席者の見込み。実行委員長に就任した秋田県人会会長の川合昭氏は、「50周年もやり遂げ、自信につながる。これで最後。大統領や総理大臣も呼びたい」と意気込んでいる。

川合昭氏が実行委員長に

「大統領、首相も呼びたい」

会には、発起人の中澤川合、南雲良治(新潟県人会会長)にも参加が検討される。

川合氏は、「50周年に発足した「ブラジル日本戦後移住60周年記念祭実行委員会」設立に持ち込み、企画を県連に実現可能

性が検討される。

会には、発起人の中澤川合、南雲良治(新潟県人会会長)にも参加が検討される。

川合氏は、「50周年に発足した「ブラジル日本戦後移住60周年記念祭実行委員会」設立に持ち込み、企画を県連に実現可能

性が検討される。

川合氏は、「50周年に発足した「ブラジル日本

